



災害対応 演習システム

自治体防災担当職員の実践的対応力の強化は重要な課題となっており、より実戦的な訓練手法として、図上訓練が注目されています。

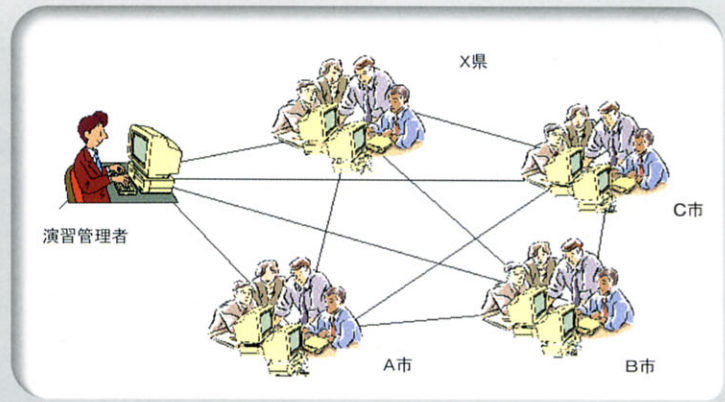
図上訓練とは、「一定の役割を付与された訓練参加者とグループが、擬似的な災害状況下で、決められた役割に従って災害対応行動を行う実戦的な訓練」のことです。

一方で、図上訓練を実施するにあたっては、準備や実施に一定のスキルやノウハウが要求され、訓練後の評価や分析が煩雑である等の課題があります。

人と防災未来センターでは、災害対応を実戦的に訓練することが可能な「災害対応演習システム」を開発しました。この「災害対応演習システム」では、従来の図上訓練の欠点である、訓練結果の記録、訓練進行管理、訓練結果の評価などの煩雑さを解消し、災害時におけるグループ間の連携を効果的に演習するとともに、訓練後の評価も適切に行うことが可能となっています。

従来の図上訓練と演習システムの比較

項目	従来(紙媒体)	演習システム
情報のやり取り	煩雑	容易
対応履歴の管理	煩雑	容易
演習の事前準備	煩雑	容易
演習時間の管理	やや難しい	容易
演習結果の分析・評価	煩雑	容易



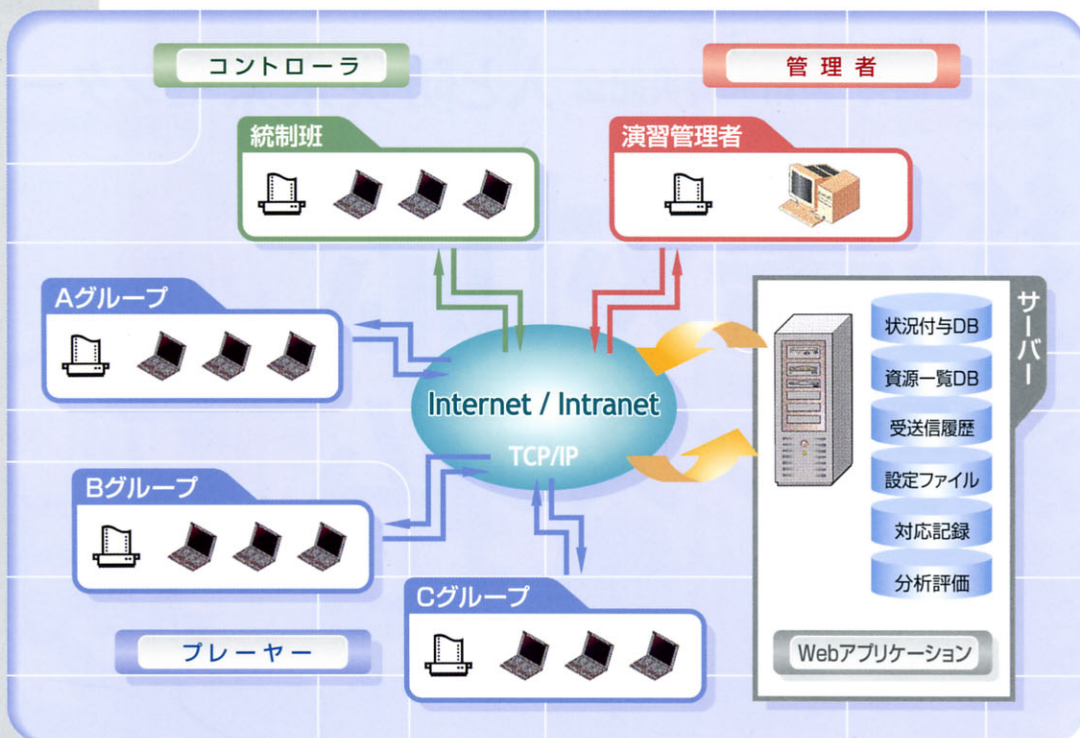
災害対応演習システムによる演習イメージ

演習の目的と効用

演習の目的と効用について、以下に列挙します。

- 1) 都市直下地震による被害状況下での災害対策本部の対応を模擬的に体験することができます。
- 2) 初動時の限られた情報に基づく被害の予測、情報収集・整理と伝達、先手を打った対応等の意思決定について訓練することができます。
- 3) 応急対策の実施手順や役割分担の確認ができます。
- 4) 防災関係機関間の連絡調整の問題点や課題について学ぶことができます。
- 5) 図上訓練を企画するための素養を身につけることができます。

災害対応 演習システム



システム構成



演習時刻の表示 (Exercise Time Display)

プレーヤー名 (Player Name)

対応の新規作成 (New Response Creation)

受信履歴 (Receive History)

対応履歴 (Response History)

No.	種別	件名	相手	対応時刻	ID
2	問い合わせ	テレビ報道	信州管内	10月13日 15時24分	P01
1	問い合わせ	ライブライン状況	東川市 西原市	10月13日 15時23分	P01

特徴

- インターネットや電子メールを使う感覚で扱うことができます。
- 受信履歴を隠すなど難易度を調整することができます。

プレーヤー端末の画面イメージ

システム概要

演習システムは、演習管理者と複数の参加者グループの端末（1グループあたりノートパソコン4台程度）で構成されます。演習参加者の端末は、状況付与や被害状況の映像といった受信情報と他グループへの問い合わせ・要請等の対応履歴の画面で構成されています。参加者グループの対応は対応時刻、対応項目ごとにサーバーに蓄積されます。

このシステムでは、各プレーヤーはインターネットまたはイントラネットを介して参加可能であり、遠隔地での訓練も可能です。

シナリオ概要

演習の対象者は都道府県・市町村の防災担当者とし、両者が混在していることを想定したシナリオとしました。

仮定の県・市で発生した「M7クラスの直下地震」への対応を演習します。

各グループは、災害対策本部として、情報収集・伝達、状況の分析、対策実施の意思決定を行います。



（（（（ 体験者の声 ））））

- 実際の災害状況に近い体験をすることができた。
- 情報の収集、整理、意思決定の重要性を認識することができた。
- 具体的な手法を学ぶことができた。実際の訓練にも十分応用可能。
- 対応に優先順位をつけることの重要性、困難さを認識した。
- 自治体によって対応の考え方に差があることがわかった。

【開発協力】

株式会社防災&情報研究所
兵庫県

【お問い合わせ先】

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 防災未来館6階
電話 078-262-5067 FAX 078-262-5082
E-mail : rep@dri.ne.jp URL : http://www.dri.ne.jp/